

Top Message …P1

「情報」をキーワードに、
パチンコホール・遊技機メーカー・ファンにメリットをもたらし
他にないユニークな存在としての成長路線を構築します。

ダイコク電機最前線 **Fade in** …P5

- 「MIRAIGATE2009」～未来をカタチづくる現在～
- DK-SISセミナーを全国で開催
- 名古屋証券取引所主催「株式投資ウィンターセミナー」に参加

●営業のご報告 …P7

●セグメント別の状況 …P9



「情報」をキーワードに、パチンコホール・遊技機メーカー・ファンにメリットをもたらす他にはないユニークな存在としての成長路線を構築します。

株主の皆さまにおかれましては、ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。平素より当社事業へのご理解と格別のご支援を賜り、誠にありがとうございます。

おかげさまで当期（2009年3月期）は、期初予想を上回る好調な業績を収めることができました。ここにその取組み及び成果についてのご報告とともに、次期（2010年3月期）以降の展開と今後の成長に向けたビジョンについて、代表取締役社長 栢森雅勝よりご説明させていただきます。



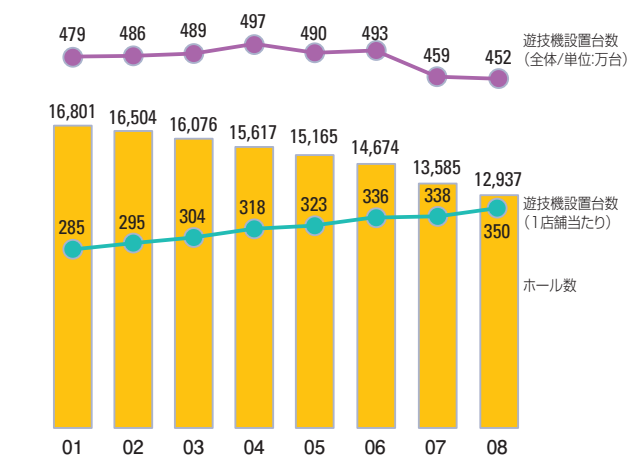
代表取締役社長 栢森雅勝

当期の事業環境と取組み成果を振り返って……………

● 景気後退の中でも、パチンコ消費金額は前期水準を維持

2008年秋のいわゆるリーマンショック以降、米国金融危機の影響が拡大し、世界同時不況の様相を呈してきました。国内経済は急激な景気悪化に見舞われ、今なお一層の深刻化も懸念される先行き不透明な状況にあります。株主の皆さまは、個人消費の減退傾向等が当社の事業環境に及ぼしている影響度合いについて懸念されているかと存じます。

● パチンコホール数及びパチンコ・パチスロ遊技機設置台数の推移



調査資料の出处:「平成20年中における風俗関係事犯等について」(2008年12月末日現在)

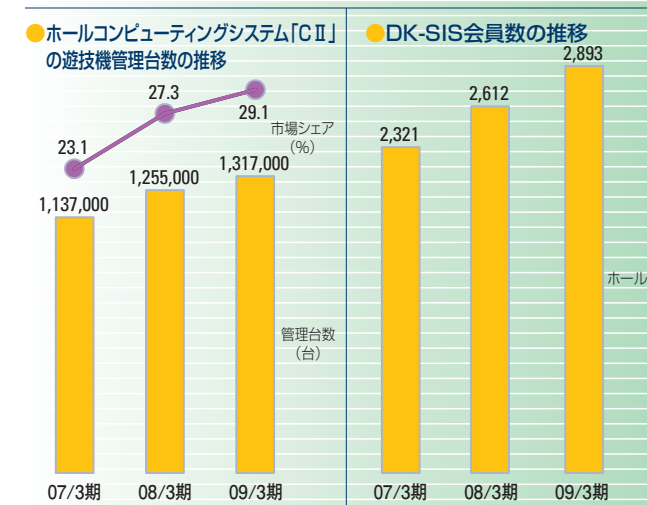
当社は、全国の会員ホールの営業データを日々収集・分析しフィードバックする、業界唯一の会員制情報提供サービス「DK-SIS」を提供しており、現在、約2,900の会員ホールがあり、市場全体の遊技機設置台数の約2割をカバーしております。業界動向そのものといえるデータが得られる「DK-SIS」を通じて、店舗の営業情報を集計・分析しますと、2008年秋から2009年春先までのホールにおける消費金額は対前年比でマイナスとなっておらず、横ばいないし微増傾向を示しております。消費者の生活防衛意識・消費減退傾向の高まりは、旅行等高額な出費をとまなうレジャーについては影響を及ぼしているものの、パチンコについては身近で手軽、日常的な余暇として、現在のところ大きな抑制感を生じていない状況であるといえるでしょう。

市場全体についての状況を振り返ると、パチンコホールでは1円パチンコ等の低貸玉営業が全国的に浸透し、ゲーム性が多様化したパチンコ遊技機に比重を置いた営業が定着してきております。当期は市場規模を拡大するような人気コンテンツをもった遊技機の輩出がなかったにも関わらず、こうした消費金額を維持できたのは、遊技機メーカー及びパチンコホール各社の企業努力が現れているものと思われまます。

● 物売りビジネスからの脱却と、よりファンに喜ばれる開発提案

次に、当社における注力テーマに沿って、当期の総括を申し上げます。

情報システム事業では、前期（2008年3月期）後半から市場投入した次世代ブランド「MIRAIGATE（ミライゲート）」について、当期はその普及・定着及びブラッシュアップに注力してまいりました。「MIRAIGATE」は「物売りビジネスからの脱却」をコンセプトに開発されたもので、ホール経営に営業戦略・集客戦略・運用管理の各種支援サービスを提供する新ブランドの総称です。当社は「MIRAIGATE」の構成要素であるシステムとしての機能向上、ネットワークとしての柔軟性とスピード、そしてスタッフによる顧客対応について、「パチンコホールのお役に立つ発想」のさらなる充実をはかり、拡販に努



めてまいりました。また、第4四半期に発表した新製品の情報公開端末「BIGMO」や台毎計数システム「楽pass」等が市場の評価を得て設置が進みました。

一方、制御システム事業では、遊技機用ユニットの開発製造を受託する外注としての立場から、遊技機メーカーのパートナーへの進化を目指して、自らの情報力を活かし、よりファンに喜ばれる遊技機についての提案力を発揮してまいりました。

当期は、ここ3年ほどのそうした取組みが実を結び、当社が企画提案に関わったいくつかの機種が市場で高評価を得るに至りました。その結果機種数、販売台数ともに前期を大幅に上回り、特に第4四半期には、制御システム事業を通じて関わることで遊技機が大ヒットとなり、販売台数が大幅に増加いたしました。

● 価値情報ネットワークシステムの実現

ファン、ホール、遊技機メーカーに情報が流れる仕組みを実現する。

情報が流れることで、行動が変わる。
パチンコファン・ホール・メーカーを巻き込み、
業界全体の行動が変わればそれは変革になる。
ダイコク電機は、情報の流れを担って
いくことで変革の中心となる。



今後の取組みと成長に向けたビジョン

● 顧客のより良きパートナーを目指す体制を準備

次期の取組み課題としては、まず情報システム事業において、「MIRAIGATE」のさらなる価値向上に努め、新製品を投入しつつスタッフにおける体制面・スキル面の充実をはかってまいります。その一環として情報システム事業では、2009年4月1日より組織改革を実施し、営業・CS・拠点をホールサポートセンタとして一体化することで、顧客のより良きパートナーを目指す体制を準備しました。

制御システム事業では、企画提案を強化し、開発業務における一層の品質向上に努めつつ、作業プロセスの見直しを行い、業務効率の改善に取り組んでまいります。

また、この他に当社は、ゲーム等アミューズメントソフト及

びアミューズメントコンテンツの企画・開発・販売を展開するアミューズメントコンテンツ事業を運営しております。これまで先行投資状況が続いていた部門ですが、当期において、オリジナルコンテンツ開発から受託業務への特化にシフトすることによって収益の安定化をはかり、事業基盤の大幅な改善を実施したことにより、黒字化への足掛かりを築くことができました。次期においては、実際に黒字転換を果たし、自分たちの仕事の質を向上させていくことによって、技術力をベースとした事業価値の拡大を実現させていく段階に移行いたします。

● 「情報」をキーワードに、ユニークな存在として成長性を確保

より中長期的な視点で当社が目指していることは、パチンコ業界、そして日本経済全体が成熟化を迎えた状況の中で、将来の成長に向けた路線を作り出していく取組みです。これを市場

の成長に頼らずに、自ら創出していく必要があります。そうした課題の中で、当社は事業の変革と事業領域の拡大を成長戦略として推進してまいります。

そのキーワードとなるのが「情報」です。「DK-SIS」を通じてパチンコホールにもたらされる生の遊技機データや業界情報が遊技機導入の判断に参照され、また店内における大当たり情報が、ファンにとって遊技台を選ぶ楽しみをもたらし、あるいは店外のファンに来店動機として作用するといった具合に、情報はその提供によって人々の行動に変化を起こすことができます。当社は、この情報の提供を通じて、パチンコホール・遊技機メーカー・ファンの3者に大きなメリットをもたらすユニークなポジションを目指し、他に取って代わられることのない存在価値を持った企業として、自らの成長性を確保していく考えです。

● 安定的かつ継続的な配当の維持・充実を基本方針に

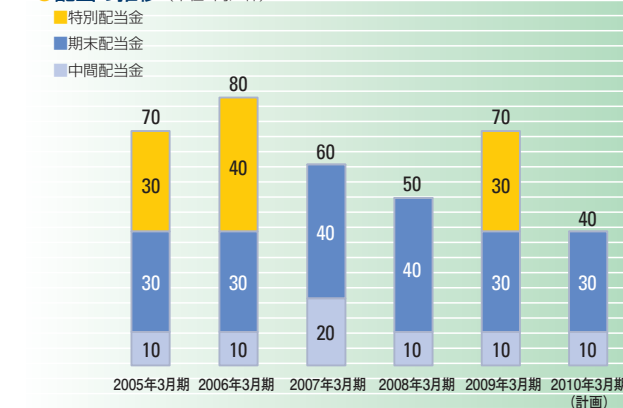
当社にとって株主の皆さまは、お客さまであるパチンコホールならびに遊技機メーカー各社、ユーザーであるパチンコファンの皆さま、従業員といった多くのステークホルダーの方々と同様に、当社の存続にとって不可欠な、かけがえのない存在であると認識しております。こうした株主の皆さまからのご期待とご支援にお応えしていく上で、安定的かつ継続的な配当の維持・充実を、利益還元における基本方針としております。

当期の期末配当については、業績の好調を反映して増配し、1株当たり60円(前期比20円の増配)とさせていただきます。これにより、中間配当の1株当たり10円(前期同額)と合わせた年間配当額は、1株当たり70円となりました。

当社の事業は、基本的にはB to Bビジネスであり、個人株主の皆さまに直接サービスをお届けする機会はありませんが、パチンコホールという多くの皆さまにとって身近な場所を通じ、気軽なレジャーを提供する仕事をしている企業として、親しみと共感をお持ちいただければ、誠に幸いに存じます。今後とも当社事業への長期的なご支援を賜りますよう、心よりお願い申し上げます。



● 配当の推移 (単位:円/株)



(注) 業績に応じて特別配当を実施しております。

「MIRAIGATE2009」 ～未来をカタチづくる現在～

2009年2月5日の名古屋会場を皮切りに、福岡、東京、大阪の全国4会場、延べ6日間にわたり、ダイコク電機展示会&セミナーを開催いたしました。

今年は「MIRAIGATE」を冠した新製品群を積極的にリリースし、台毎計数システム『楽pass』、新情報公開端末『BiGMO』、プレジャービジョン『PV-77』、新景品顧客システム『77シリーズ』等の提案・展示を行いました。

また、ファン獲得のための新しいスタイルを提案する「来店誘導提案」、より効率的で安心な業務を追求する「MIRAIGATEオフィス提案」等、提案コーナー別に製品を展示することにより、その提案を実現するための当社製品の必要性と機能の有効性を伝えました。

DJによるプレゼンショーでは、展示会のコンセプトである「FAN FIRST (ファン第一主義)」を前面に打ち出し、ファンに選ばれる店作りの要点を分かりやすくお伝えしました。

今後もさらなる製品開発・営業活動により、「MIRAIGATE」ブランドの定着に努めてまいります。



DK-SISセミナーを 全国で開催

会場	来場者数(名)
名古屋	534
福岡	268
東京(2日間)	907
大阪(2日間)	630
合計(4会場、6日間)	2,339

●DK-SISセミナー「2009年 未来に繋がるホール戦略を開拓せよ！」



今年は展示会との同時開催ということもあり、「当社製品やDK-SISの活用が今後のホールの業績向上をどう導くか」という主旨でセミナーを実施いたしました。

今回は1人でも多くの方にご参加いただくため、全会場で同じ内容のセミナーを1日に2回実施し、その結果2,339名という大変多くの方々に当社の提案をご聴講いただくことができました。

セミナー内容については業績を向上させる戦略として、「情報公開による集客戦略」、「稼働向上につながる遊技環境戦略」、「モードSISを用いたパチスロ戦略」、「次世代データ戦略」等、大きく4つの戦略を提案いたしました。

特に「次世代データ戦略」については、「来店客数データ」や「経営管理データ」等、従来言及してこなかった新しいデータ領域に踏み込んで説明いたしました。セミナー後のアンケートでも、大変大きな反響があり、変化する市場の中で当社提案への大きな期待を感じ取ることができました。

当社は業界のオピニオンリーダーとして、今後も当社ならではのセミナー活動に努めてまいります。

名古屋証券取引所主催 「株式投資ウィンター セミナー」に参加

2009年1月31日(土)に名古屋市中電ホールにて開催された名古屋証券取引所主催の個人投資家向け企業説明会「株式投資ウィンターセミナー」に参加いたしました。

当社の説明には500名を超える方が参加され、社長の栢森雅勝から業界動向や事業内容、今後の戦略等の説明をさせていただきました。ご来場いただきました株主・投資家の皆さま、誠にありがとうございました。

今後も継続的にIR活動を行い、当社の知名度・認知度の向上に努めてまいります。

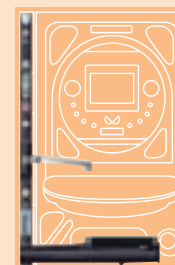


New Products 「FAN FIRST」をコンセプトとした新製品を2009年4月1日に発売いたしました。

■台毎計数システム『楽pass』

台毎計数システム『楽pass』は、わかりやすさと、ファンが安心して遊技できることに徹底的にこだわりました。

- リアルタイムに正確な持ち玉数を表示することで、ファンは臨場感を楽しむことができます。
- 操作も非常にシンプル。誰でも簡単に遊技を楽しむことができます。
- 持ち込み玉等の不正もリアルタイムに検知します。



■プレジャービジョン『PV-77』

プレジャービジョンは遊技しながら利用できる「個人向けサービス端末」です。

新型プレジャービジョン『PV-77』は、「年配ファンでもわかりやすく、見やすく、使いやすく」をコンセプトとしています。

大きな特長は、ファンが見やすい、使いやすいモニタポジション。快適に台データをしながらパチンコを楽しむことができます。

また、このモニタには呼出ボタンも付いておりますので、従業員を呼びたいときにも、わざわざ立ち上がって呼出ランプのボタンを押す必要ありません。



■新情報公開端末『BiGMO』

今までの呼出ランプの概念を変える新情報公開端末『BiGMO』。

業界最大10.4インチ液晶で、ホール内のイメージを大きく変えるだけでなく、状況に応じてファンが見たいデータを、「どデカ表現」でわかりやすく伝え、遊技しているファンの、ドキドキ感、ワクワク感を盛りたてます。

さらには、業界初AC（遊びコミュニケーション）機能を搭載し、「データニュース」や「パチンコ講座」など多彩な情報をファンに直接語りかけます。



■新景品顧客システム『77シリーズ』

新景品顧客システム『77シリーズ』は、有名デザイナーとのコラボレーションにより、今までにない最先端のデザインに仕上げました。

デザインでホール内のイメージを変えるだけでなく、ファンの利便性を追求するため、携帯電話（おサイフケータイ）で、貯玉/再プレイを利用することもできるようになりました。

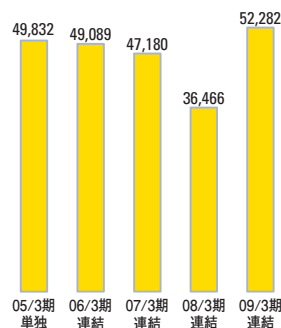


POS用カードリーダー [RCI-77] 景品管理POS [CTI-77] 玉計数機 [LC-77] 台幅玉計数機 [LC-77T]

主要財務データ

Key Financial Data

●売上高 (単位:百万円)



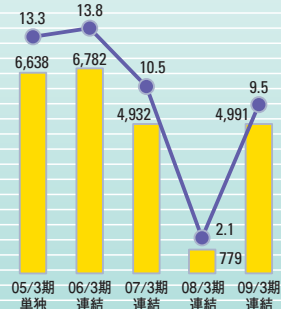
●営業利益 (単位:百万円)

●売上高営業利益率 (単位:%)



●経常利益 (単位:百万円)

●売上高経常利益率 (単位:%)



当連結会計年度の取組みと成果

当社グループが携わるパチンコ業界におきましては、顧客であるパチンコホールでは、昨年7月の北海道洞爺湖サミット開催にともなう遊技機入替自粛はありましたが、1円パチンコ等の低貸玉営業も全国的に浸透し、ゲーム性が多様化されたパチンコ遊技機に比重を置いた営業が定着してきました。また、経済産業省の「特定サービス産業動態統計調査」によれば、平成20年10月～12月期のホール企業売上高は前年同期比で6年ぶりに増加しておりパチンコホールの収益状況は改善しつつあると思われます。

警察庁生活安全局発表の「平成20年中における風俗関係事犯等について」によると、パチンコホール数は、平成19年に比べて648店舗減少し、12,937店舗となりました。また、遊技機設置台数はパチンコ遊技機が122,035台増加しましたが、パチスロ遊技機は187,087台減少し、合計65,062台減少の4,525,515台となりました。その結果1店舗当たりの遊技機設置台数は349.8台と平均で11.9台増加し、店舗の大型化傾向が続いております。

このような市場環境のなか、情報システム事業におきましては、新ブランド「MIRAIGATE」の普及と定着、MIRAIGATEネットワークの実現に邁進しました。制御システム事業におきましては、収益性の向上を目指し、開発期間の短縮と開発機種数の増加、市場に対する企画提案力の強化を行いました。

この結果、当連結会計年度の業績は、連結売上高522億82百万円（前期比43.4%増）、連結営業利益47億99百万円（同48億35百万円増）、連結経常利益49億91百万円（同540.5%増）、連結当期純利益35億23百万円（同37億11百万円増）となりました。

次期の見通し

パチンコ業界は、今期と変わらず、新規出店よりも既存店の改装等を中心とした動きになると思われます。また、遊技機市場においては、各メーカーがシェア確保のため、開発機種数を増やす傾向があり、今後も開発ボリュームは増加していくと思われます。

このような市場環境のなか、情報システム事業におきましては、現段階では売上高224億円（前期比0.8%減）と見込んでおりますが、MIRAIGATEネットワークの普及、強化をはかることにより前期を上回るよう努めてまいります。制御システム事業におきましては、現段階では売上高222億円（同21.2%減）と見込んでおりますが、企画提案を強化し付加価値を追求していくことにより、より一層の売上拡大をはかってまいります。アミューズメントコンテンツ事業におきましては、開発体制を強化していくことにより売上高20億円（同30.4%増）を見込んでおります。

この結果、連結売上高は466億円（同10.9%減）、連結営業利益は26億円（同45.8%減）、連結経常利益は27億円（同45.9%減）、連結当期純利益は12億円（同65.9%減）を見込んでおります。

業績の見通しに関する注意事項

本資料中に記載されている市場予測や業績見通しは、当社の経営陣が現在有効な情報に基づき判断したもので、その実現には潜在的リスクや不確実性を含んでおり、さらに業績に影響を与える要因はこれに限定されるものではありません。従いまして、諸要因の変化により実際の業績は記載事項と大きく異なる結果となる可能性があることをあらかじめご承知おきください。

対処すべき課題

<情報システム事業>

MIRAIGATEネットワークの普及から活用へ

MIRAIGATEネットワーク普及とその活用により、付加価値を提供しつつランニングビジネスの確立を目指します。

1. C IIシステムの開発を強化し、ネットワークを活かした、従来にはなかったホール集客支援の実現を目指します。
2. 顧客のホール運営支援としてC IIデスク、メンテナンスデスクを設置し、ネットワークの活用により顧客との双方向コミュニケーションを実現することで、顧客に安心感と利便性を提供します。

<制御システム事業>

1. 受託から脱皮し企画提案へ進化

ハードウェア、ソフトウェアの企画提案力を強化し、新たな機種開発と制御ユニットの獲得を目指します。

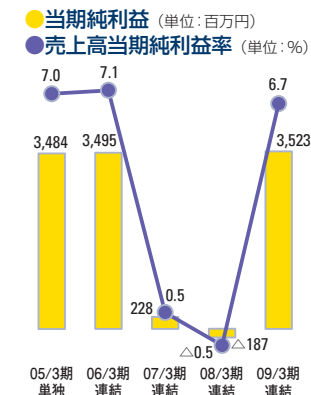
2. 開発手法の改革

開発業務を全面的に見直し、工程間の手待ちや手戻りを削減し開発期間を短縮します。

<アミューズメントコンテンツ事業>

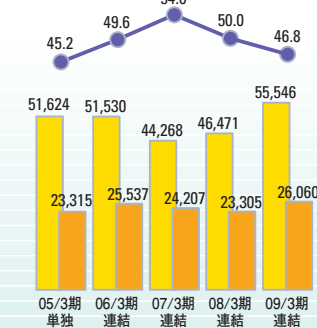
ブランド価値の確立

開発体制を強化することで、ブランド価値を向上し、携帯キャリア各社や大手ゲーム会社の信頼を築き、事業を拡大していくことを目指します。



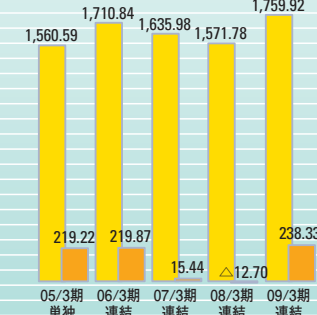
●総資産 ●純資産 (単位:百万円)

●自己資本比率 (単位:%)

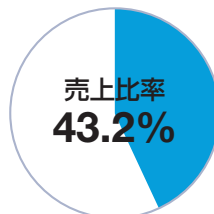


●一株当たり純資産 (単位:円)

●一株当たり当期純利益 (単位:円)



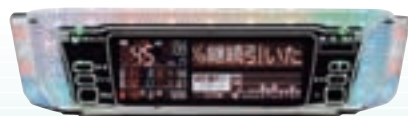
情報システム事業



当連結会計年度において、顧客であるパチンコホールでは、新規出店等の大型投資が前期より引き続き抑えられる一方で、既存店舗の改装等の小規模な投資が目立つ動きとなりました。

このような市場環境のなか、当事業は、「MIRAIGATE」の普及と定着を進め、ホールコンピューティングシステム「C II」、情報公開機器、DK-SIS・コンテンツライブラリーといったネットワークによるサービスの普及に努め、新たに貯玉のデータをバックアップする新サービスも立ち上げました。また、第4四半期に発表した新製品の情報公開端末「BiGMO」や台毎計数システム「楽pass」等が、市場の評価を得て設置が進みました。

この結果、当事業の売上高は225億72百万円（前期比6.7%増）、営業利益28億97百万円（同37.4%増）と増収増益となりました。



MIRAIGATEランプ「IL-A2」

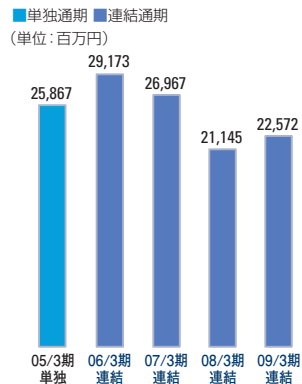
「IL-A2」は業界初の「Wドット」を搭載することで、大画面の自由表示領域を実現し、大当り中などの状態に合った最適なデータを自動表示することを可能にしました。それにより、パチンコファンは遊技状態に合った最適なデータ表示を、ボタン操作や細かいデータの中から探す必要がなくなりました。「IL-A2」はより詳細なデータを求める若年層ファンはもちろんのこと、ボタン操作が苦手な年配層ファンにも「見やすく」、「分かりやすく」最適なデータ表示を提供できる呼出ランプです。



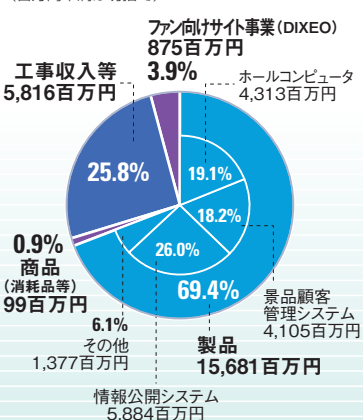
営業管理コンピュータ

パチンコホールの台管理・景品管理・顧客管理・映像管理・情報公開システムの総合営業管理を行い、パチンコファンの来店誘導の演出とセキュリティ強化に着目したホールコンピューティングシステムです。台データ管理機能は従来の基本性能を継承し、新しく柔軟性と拡張性を実現しました。

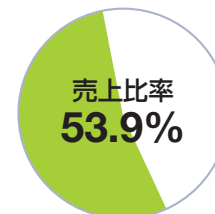
●情報システム事業売上高



●情報システム事業売上高構成比



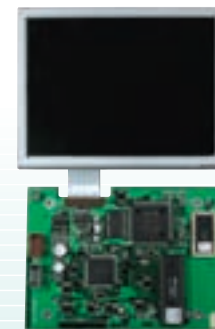
制御システム事業



当連結会計年度における遊技機市場に大きな変化はありませんでしたが、昨秋の内規変更を受けて第4四半期に市場投入される機種が増加しました。

このような市場環境のなか、当事業は、企画力・開発力の強化に努め、当社グループが企画提案に関わったいくつかの機種が市場で高い評価を受けました。機種数、販売台数とも前期を大幅に上回り、特に第4四半期に大ヒット機種に恵まれました。

この結果、当事業の売上高は281億76百万円（前期比109.9%増）、営業利益41億16百万円（同1,284.9%増）と大幅な増収増益となりました。



表示ユニット

パチンコ遊技機のゲーム内容を表現する部分で、ハードウェアとそれに搭載されるプログラムから構成されます。



制御ユニット

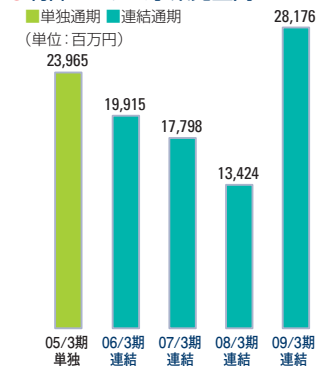
基本動作をつかさどるハードウェアとそれに搭載されるプログラムから構成され、パチンコ遊技機の心臓部といえます。



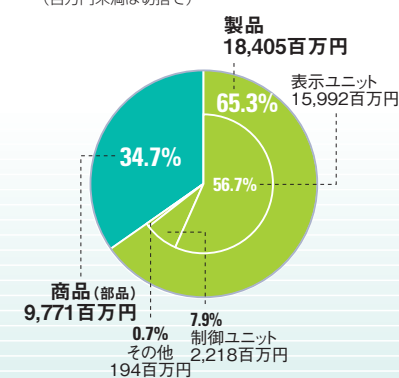
商品 (部品)

パチンコ遊技機に使用される液晶パネル、スイッチ、モーター等のオートメーションパーツの仕入販売をしております。

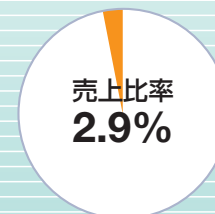
●制御システム事業売上高



●制御システム事業売上高構成比



アミューズメントコンテンツ事業



当連結会計年度における当事業は、コンシューマゲームにおいて受託中心に行い収益は改善しました。また、携帯電話ゲームにおいては、NTTドコモのデコメアニメ等、新たなジャンルへ取り組みましたが、携帯電話会社の販売手法の変更により新機種への買換需要が大きく低下し、当事業の売上高が減少しました。

この結果、当事業の売上高は15億33百万円（前期比19.1%減）、営業損失2億59百万円（同1億36百万円減）となりました。

(単位：百万円、百万円未満は切捨て)

連結貸借対照表 (要旨)		
科 目	当連結会計年度	前連結会計年度
	2009年3月31日現在	2008年3月31日現在
資産の部		
流動資産	39,931	30,459
固定資産	15,614	16,011
有形固定資産	6,905	7,091
無形固定資産	1,312	1,476
投資その他の資産	7,396	7,443
繰延資産	0	0
資産合計	55,546	46,471
負債の部		
流動負債	27,811	21,034
固定負債	1,674	2,131
負債合計	29,485	23,165
純資産の部		
株主資本	26,014	23,230
資本金	674	674
資本剰余金	680	680
利益剰余金	24,660	21,876
自己株式	△0	△0
評価・換算差額等	3	6
少数株主持分	41	69
純資産合計	26,060	23,305
負債純資産合計	55,546	46,471

連結損益計算書 (要旨)			
科 目	当連結会計年度	前連結会計年度	
	2008年4月 1日から 2009年3月31日まで	2007年4月 1日から 2008年3月31日まで	
売上高	52,282	36,466	
売上原価	36,466	25,755	
売上総利益	15,815	10,710	
延払販売未実現利益控除	—	121	
延払販売未実現利益戻入	31	—	
差引売上総利益	15,847	10,589	
販売費及び一般管理費	11,047	10,626	
営業利益又は損失 (△)	4,799	△36	
営業外収益	348	980	
営業外費用	156	164	
経常利益	4,991	779	
特別利益	24	312	
特別損失	229	507	
税金等調整前当期純利益	4,786	584	
法人税、住民税及び事業税	1,233	693	
法人税等調整額	57	30	
少数株主利益又は損失 (△)	△27	47	
当期純利益又は純損失 (△)	3,523	△187	

連結キャッシュ・フロー計算書 (要旨)			
科 目	当連結会計年度	前連結会計年度	
	2008年4月 1日から 2009年3月31日まで	2007年4月 1日から 2008年3月31日まで	
営業活動によるキャッシュ・フロー	3,927	379	
投資活動によるキャッシュ・フロー	△1,171	1,258	
財務活動によるキャッシュ・フロー	△1,433	590	
現金及び現金同等物に係る換算差額	△10	△7	
現金及び現金同等物の増加額	1,310	2,220	
現金及び現金同等物の期首残高	14,347	12,105	
新規連結子会社分現金及び現金同等物の期首残高	—	21	
現金及び現金同等物の期末残高	15,658	14,347	

連結株主資本等変動計算書 (要旨)								
当連結会計年度 2008年4月1日から2009年3月31日まで	株主資本					評価・換算差額等 その他有価証券 評価差額金	少数株主持分	純資産合計
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計			
2008年3月31日残高	674	680	21,876	△0	23,230	6	69	23,305
連結会計年度中の変動額								
剰余金の配当	—	—	△739	—	△739	—	—	△739
当期純利益	—	—	3,523	—	3,523	—	—	3,523
自己株式の取得	—	—	—	△0	△0	—	—	△0
株主資本以外の項目の連結会計年度中の変動額(純額)	—	—	—	—	—	△2	△27	△29
連結会計年度中の変動額合計	—	—	2,784	△0	2,784	△2	△27	2,754
2009年3月31日残高	674	680	24,660	△0	26,014	3	41	26,060

貸借対照表 (要旨)		
科 目	当事業年度	前事業年度
	2009年3月31日現在	2008年3月31日現在
資産の部		
流動資産	38,611	29,583
固定資産	16,805	16,278
有形固定資産	6,494	6,777
無形固定資産	1,268	1,425
投資その他の資産	9,042	8,076
資産合計	55,417	45,862
負債の部		
流動負債	26,844	19,843
固定負債	1,556	2,018
負債合計	28,400	21,861
純資産の部		
株主資本	27,012	23,993
資本金	674	674
資本剰余金	680	680
利益剰余金	25,659	22,640
自己株式	△0	△0
評価・換算差額等	3	6
純資産合計	27,016	24,000
負債純資産合計	55,417	45,862

当事業年度 2008年4月1日から2009年3月31日まで	株主資本							評価・換算差額等 その他有価証券 評価差額金	純資産合計	
	資本金	資本剰余金 資本準備金	利益剰余金 利益準備金	利益剰余金		自己株式	株主資本合計			
				その他利益剰余金 別途積立金	繰越利益剰余金					
2008年3月31日残高	674	680	30	20,000	2,610	22,640	△0	23,993	6	24,000
事業年度中の変動額										
剰余金の配当	—	—	—	—	△739	△739	—	△739	—	△739
当期純利益	—	—	—	—	3,758	3,758	—	3,758	—	3,758
自己株式の取得	—	—	—	—	—	—	△0	△0	—	△0
株主資本以外の項目の事業年度中の変動額(純額)	—	—	—	—	—	—	—	—	△2	△2
事業年度中の変動額合計	—	—	—	—	3,019	3,019	△0	3,019	△2	3,016
2009年3月31日残高	674	680	30	20,000	5,629	25,659	△0	27,012	3	27,016

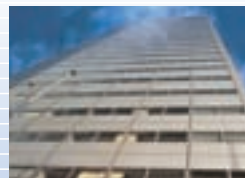
(単位：百万円、百万円未満は切捨て)

損益計算書 (要旨)		
科 目	当事業年度	前事業年度
	2008年4月 1日から 2009年3月31日まで	2007年4月 1日から 2008年3月31日まで
売上高	50,165	33,901
売上原価	35,234	24,300
売上総利益	14,931	9,600
延払販売未実現利益控除	—	121
延払販売未実現利益戻入	31	—
差引売上総利益	14,963	9,479
販売費及び一般管理費	9,867	9,112
営業利益	5,095	367
営業外収益	538	1,034
営業外費用	114	120
経常利益	5,518	1,281
特別利益	17	322
特別損失	629	863
税引前当期純利益	4,907	741
法人税、住民税及び事業税	1,173	595
法人税等調整額	△24	35
当期純利益	3,758	110

(2009年6月26日現在)

●商号	ダイコク電機株式会社 DAIKOKU DENKI CO., LTD.																												
●創業	1964年12月																												
●設立	1973年 7月																												
●資本金	6億7千4百万円(発行済株式総数14,783,900株)																												
●本社	名古屋市中央区那古野一丁目47番1号 名古屋国際センタービル2階																												
●従業員数	(単独)456名 (連結)698名 (2009年3月31日現在)																												
●事業内容	パチンコホール向けコンピュータシステムの開発・製造・販売 パチンコ・パチスロ遊技機用ユニットの開発・製造・販売																												
●役員	<table border="0"> <tr> <td>代表取締役社長</td> <td>栢 森 雅 勝</td> </tr> <tr> <td>代表取締役副社長</td> <td>栢 森 秀 行</td> </tr> <tr> <td>代表取締役専務</td> <td>栢 森 健 健</td> </tr> <tr> <td>常務取締役</td> <td>岩 根 節 雄</td> </tr> <tr> <td>取締役</td> <td>平 原 正 義</td> </tr> <tr> <td>取締役</td> <td>山 下 陽 陽</td> </tr> <tr> <td>取締役</td> <td>橋 本 忠 巳</td> </tr> <tr> <td>取締役</td> <td>根 本 弘 弘</td> </tr> <tr> <td>取締役</td> <td>堀 田 昌 郎</td> </tr> <tr> <td>取締役</td> <td>國 保 徳 丸</td> </tr> <tr> <td>常勤監査役</td> <td>伊 東 幹 夫</td> </tr> <tr> <td>監査役</td> <td>田 中 正 雄</td> </tr> <tr> <td>監査役</td> <td>敷 田 稔 稔</td> </tr> <tr> <td>監査役</td> <td>村 橋 泰 志</td> </tr> </table>	代表取締役社長	栢 森 雅 勝	代表取締役副社長	栢 森 秀 行	代表取締役専務	栢 森 健 健	常務取締役	岩 根 節 雄	取締役	平 原 正 義	取締役	山 下 陽 陽	取締役	橋 本 忠 巳	取締役	根 本 弘 弘	取締役	堀 田 昌 郎	取締役	國 保 徳 丸	常勤監査役	伊 東 幹 夫	監査役	田 中 正 雄	監査役	敷 田 稔 稔	監査役	村 橋 泰 志
代表取締役社長	栢 森 雅 勝																												
代表取締役副社長	栢 森 秀 行																												
代表取締役専務	栢 森 健 健																												
常務取締役	岩 根 節 雄																												
取締役	平 原 正 義																												
取締役	山 下 陽 陽																												
取締役	橋 本 忠 巳																												
取締役	根 本 弘 弘																												
取締役	堀 田 昌 郎																												
取締役	國 保 徳 丸																												
常勤監査役	伊 東 幹 夫																												
監査役	田 中 正 雄																												
監査役	敷 田 稔 稔																												
監査役	村 橋 泰 志																												

(注) 1. 取締役 堀田昌郎氏、國保徳丸氏は社外取締役であります。
2. 監査役 田中正雄氏、敷田稔氏、村橋泰志氏は社外監査役であります。



本社



本部事業所

●事業所一覧

本 社	〒450-8640	名古屋市中央区那古野一丁目47番1号 名古屋国際センタービル TEL(052)581-7111(代表)
本部事業所	〒480-0395	春日井市坂下町1丁目875 TEL(0568)88-7111
高蔵寺事業所	〒487-0014	春日井市気嚙町一丁目2番地 TEL(0568)51-7111
春日井事業所	〒480-0304	春日井市神屋町1番26 TEL(0568)88-7771
TOKYO デザインスタジオ	〒169-0072	東京都新宿区大久保1丁目3番21号 新宿TXビル

●拠点一覧

東日本支店	〒110-0005	東京都台東区上野七丁目2番10号 上野駅前第一生命ビル
・茨城営業所	〒305-0032	つくば市竹園二丁目2番地4 第2・ISSEIビル
・北関東営業所	〒330-6022	さいたま市中央区新都心11番地2 明治安田生命さいたま新都心L.A.タワー
・新潟出張所	〒950-0925	新潟市中央区弁天橋通1丁目2番39号 VMビルディング
・仙台営業所	〒980-0014	仙台市青葉区本町二丁目2番3号 鹿島広業ビル
・札幌営業所	〒001-0011	札幌市北区北十一条西四丁目1番地44 ベルエアプラザ
・盛岡出張所	〒020-0045	盛岡市盛岡駅西通二丁目9番1号 マリオス
中 部 支 店	〒480-0304	春日井市神屋町1番26
・金沢出張所	〒920-0027	金沢市駅西新町3丁目9番26号
・松本出張所	〒390-0852	松本市大字島立399番地1 滴水ビル
西日本支店	〒532-0003	大阪市淀川区宮原四丁目1番14号 住友生命新大阪北ビル
・岡山営業所	〒700-0927	岡山市北区西古松一丁目1番26号 オム第Ⅱビル
・高松出張所	〒761-8071	高松市伏石町2130番地1 丸忠Ⅲビル
・広島営業所	〒730-0004	広島市中区東白島町14番15号 NTTクレド白島ビル
九 州 支 店	〒812-0016	福岡市博多区博多駅南二丁目1番9号 ヤマエ博多駅南ビル
・宮崎出張所	〒880-0801	宮崎市老松一丁目3番3号 松屋ビル

●関係会社

●連結子会社

DIXEO株式会社、元気株式会社、元気モバイル株式会社、DO株式会社、DAXEL株式会社

●関連会社

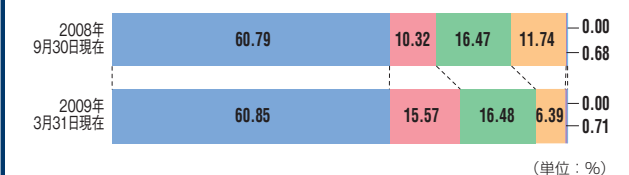
株式会社ラピス

●株式状況

発行可能株式総数	66,747,000株
発行済株式総数	14,783,900株
株主数	3,625名

●所有者別株式分布状況

	2009年3月31日現在		2008年9月30日現在	
■個人・その他	8,995,874株	3,450名	8,986,960株	3,459名
■金融機関	2,301,600株	22名	1,525,100株	24名
■その他国内法人	2,436,900株	65名	2,435,400株	66名
■外国人	944,406株	65名	1,735,099株	70名
■証券会社	104,924株	22名	101,151株	23名
■自己名義株式	196株	1名	190株	1名
合計	14,783,900株	3,625名	14,783,900株	3,643名



●持株数別株式分布状況

	2009年3月31日現在		2008年9月30日現在	
1単元未満	423株	60名	504株	53名
1単元以上5単元未満	382,601株	2,294名	384,521株	2,281名
5単元以上10単元未満	250,932株	426名	252,788株	433名
10単元以上50単元未満	1,128,711株	689名	1,164,348株	719名
50単元以上100単元未満	410,082株	62名	382,418株	56名
100単元以上500単元未満	1,442,805株	75名	1,519,181株	78名
500単元以上1,000単元未満	113,800株	2名	263,900株	4名
1,000単元以上5,000単元未満	1,535,650株	5名	1,716,600株	7名
5,000単元以上	9,518,700株	11名	9,099,450株	11名
合計	14,783,704株	3,624名	14,783,710株	3,642名

(注) 1. 2008年9月30日現在の持株数別株式分布状況には、自己名義株式1名190株を含んでおりません。
2. 2009年3月31日現在の持株数別株式分布状況には、自己名義株式1名196株を含んでおりません。

(2009年3月31日現在)

●大株主

株主名	持株数(株)	出資比率(%)
栢森 雅勝	1,885,650	12.75
栢森 健	1,767,200	11.95
栢森 寿恵	1,090,750	7.37
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	886,400	5.99
財団法人栢森情報科学振興財団	750,000	5.07
栢森 秀行	739,100	4.99
栢森 新治	737,150	4.98
栢森 隆	712,500	4.81
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	693,800	4.69
栢森 美智子	626,000	4.23
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口4G)	367,400	2.48
メロンバンクトリートリークライアンス オムニパス	337,900	2.28
ダイコク電機従業員持株会	310,500	2.10
株式会社みずほ銀行	150,000	1.01
資産管理サービス信託銀行株式会社(証券投資信託口)	59,400	0.40
アールピーデカアインバスターサービストラストロンドンレディングアカウント	54,400	0.36
シーエヌアイエイイバスタートラストカカヒージャパンメールバンクサービス	49,400	0.33
大和証券エスエムビーシー株式会社	44,100	0.29
ザバンクオブニューヨーク&ジャスティックトリートリーアカウント	43,100	0.29

(注) 出資比率につきましては、小数点第3位を切り捨てて表示しております。

●株価及び出来高の推移



株主メモ

- **事業年度** 4月1日から翌年3月31日
 - **定時株主総会** 6月下旬
 - **基準日**

定時株主総会	3月31日
期末配当	3月31日
中間配当	9月30日

その他必要があるときは、あらかじめ公告いたします。
 - **株主名簿管理人** 東京都港区芝三丁目33番1号
中央三井信託銀行株式会社
 - **同事務取扱場所** 〒460-8685
名古屋市中区栄三丁目15番33号
中央三井信託銀行株式会社 名古屋支店証券代行部
 - **郵便物送付先
電話照会先** 〒168-0063
東京都杉並区和泉二丁目8番4号
中央三井信託銀行株式会社 証券代行部
TEL.0120-78-2031 (フリーダイヤル)
取次事務は中央三井信託銀行株式会社の全
国各支店ならびに日本証券代行株式会社の
本店および全国各支店で行っております。
 - **公告方法** 電子公告によります。ただし、やむを得
ない事由によって電子公告ができない場
合は、日本経済新聞に掲載いたします。
- 公告のホームページアドレス <http://www.daikoku.co.jp/>

IR情報メール配信サービス

当社は、投資家の皆さまに対して電子メールによるIR情報配信サービスを提供しております。ご登録いただいた方々に当社ホームページ (<http://www.daikoku.co.jp/>) に新しい情報が掲載されたことをお知らせします。

ご希望の株主さまは、当社ホームページにアクセスした後、「IRメール配信ご登録」ボタン、又はディア・ネットサービスホームページ (<http://www.dimet.jp/6430>) から、簡単にご登録（無料）いただけます。

上場株式配当等の支払いに関する通知書について

租税特別措置法の平成20年改正（平成20年4月30日法律第23号）により、平成21年1月以降にお支払いする配当金について株主様あてに配当金額や源泉徴収税額等を記載した「支払通知書」を送付することが義務づけられました。

配当金領収証にてお受取りの株主様は年末又は翌年初に「支払通知書」を送付いたしますのでご覧ください。口座振込を指定されている株主様は配当金支払いの際送付している「配当金計算書」が「支払通知書」となります。なお、両書類は確定申告を行う際その添付資料としてご使用いただくことができます。

株主さまのご住所・お名前に使用する文字に関してのご案内

株券電子化実施にともない、株主様のご住所・お名前の文字に、株式会社証券保管振替機構（ほふり）が振替制度で指定していない漢字等が含まれている場合は、その全部又は一部をほふりが指定した文字又はカタカナに変換して、株主名簿にご登録いたしております。このため、株主様にご送付する通知書の宛先が、ほふりが指定した文字に置換えられる場合がありますのでご了承ください。株主様のご住所・お名前として登録されている文字については、お取引の証券会社等にお問い合わせください。

株券電子化後の配当金受取方法のお取扱い

株券電子化により、従来の配当金振込口座のご指定方法に加えて、あらかじめ登録した一つの預金口座で株主様の保有しているすべての銘柄の配当金のお受取りや、証券会社の口座でも配当金のお受取りが可能となります。確実に配当金をお受取りいただくためにも、これらの振込みによる配当金のお受取りをお勧めします。詳しくはお取引証券会社等にお問合せください。



〒450-8640 名古屋市中村区那古野一丁目47番1号 名古屋国際センタービル2階

TEL (052) 581-7111 (代表)

ホームページ <http://www.daikoku.co.jp>

